

野尋禾の
ついのべ
その十一
(2010/07)



まえがき

まえがき

”野尋禾のついのべ その十一 (2010/07)”です。

2010年7月に発表したついのべをまとめました。

……というわけで、2009年7月22日に#twnovelというハッシュタグが誕生してから、一年が過ぎました。

このハッシュタグがなければ、ツイッター小説のありかたは、ずいぶん変わっていたかもしれません。

おそらく、私は、超短篇の発表の場を求めて、卑しい街角を彷徨いつづけたことでせう。

野良犬のように、舌を垂らして、あてもなく歩き回っていたことでせう。

……といって、私の創作の技量が上がったわけではありません。

このハッシュタグのもとについのべを書いてきたことで、131文字で物語る技術は身についたと思います。

しかし、それだけです。

そのことを忘れないようにしたい、と思います。

……といいつつ、超短篇も、超長編も、ストーリー・テリングの要諦は同じであるはず。

それは——愛です。

嘘です。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。

実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。

実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。

ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/08/01

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : @nohironogi

恋、雨、猫、そして、銀色の巨人と納豆の光。(2010/07/01 - 2010/07/10)

#twnovel

恋をして、失恋して、また恋に落ちる——その繰り返し。
何度でも、何度でも……笑われても、同じことをする。
だって、他にどうしたらいいのかわからない。
僕は、僕のやりかたでしか、愛情を表現できない。
恋に落ちたら、想う彼女を描く。
わかってない奴らは、それを”痛車”と呼ぶ。

2010/07/01 (Thu)23:29:51

#twnovel

肥満した赤ん坊の矢を胸にうけた時から、矢に刺が生え始める。
痛みも伴うのだが、もちろん、恋の始まりの頃に気づくわけがない。
最初は甘いうずき。
しだいに痛みがまさり、その頃には、刺は目に見えて大きくなっている。
恋のゆくえは、だいぶ怪しい。
矢は失に変わり、恋は失われる。

2010/07/02 (Fri)00:02:53

#twnovel

駅はごったがえしていた。
休日の午後を楽しむ人々をかきわけて走った。
何度もぶつかり、何度も転んだ。きっと、ひどい格好してる。
でも、かまってもらえない。改札へ——あの人だ。
「伝えたいことって、何？」
「どんなに素晴らしい日曜も、月曜に続いている」
「それで？」
「それだけ」

2010/07/04 (Sun)22:41:10

#twnovel

「なんだ、暗い顔して」
「あ、先輩、雨、好きですか？」
「ああ、好きがもしれね」

「おら、やんた」
「んだが」
「きゃっぱれとるし、すっぱねあがるし」
「んだな」
「いぐら気いつけでも、やってまうのす」
「仕方ねえ。人類にかけられだ呪いだもの」
「先輩、物知りだなす」
「照れるべ」

2010/07/05 (Mon)21:52:03

#twnovel

「なんだ、暗い顔して」
「あ、先輩、雨、好きですか？」
「ああ、好きかも」
「私、嫌い」
「そう」
「水たまりにはまるし、泥がはねるし」
「そうだね」
「いくら気をつけても、やってしまうんです」
「仕方ないよ。人類にかけられた呪いだもの」
「先輩って、物知り」
「照れるじゃないか」

2010/07/05 (Mon)22:04:05

#twnovel

「きっと、あなたは忘れてしまう。でも、今は、しっかり聞いて。とても大事なことなの。あなたの心にどこかに、確かに残るはずだから」
「そんなことがあるもんか！ 君の言葉なら絶対に忘れない！」
「そう。じゃあ、よく聞いて——」
……なんか、今、凄いついのべのアイデアが……

2010/07/07 (Wed)21:15:31

#twnovel

七月七日午後八時から午後十時、新宿一斉消灯。
不夜城新宿が闇に包まれる——チャンスだ。
街角のポスターで情報を得てから、俺たちは準備を重ねてきた。
そして、今夜がその夜。狙いは都庁、都知事室金庫に眠る太陽族の秘宝……現在二十一時、まだ、明るいな。
CO2削減はどうした？

2010/07/07 (Wed)21:34:05

#twnovel

蒸気機関の発達は留まるところを知らない。

先日、発表された蒸気頭脳など、記者も目をみはった。

七連式自動織機を応用した計算機関が、古今東西の難問をあっというまに解いてゆく。

東洋学に造詣の深い発明者キーノウ卿は、”七つの織機”という意味の日本語”タナバタ”と命名した。

2010/07/07 (Wed)22:09:53

#twnovel

”くまざさ”には、二種類ある。

”熊笹”と”神笹”。

熊笹は珍しくないが、神笹はかなりレア。

竹取物語の竹がそれだったとも——いや、そんなトンデモ蘊蓄はどうでもいい。

大事なのは、七夕の短冊の願い事を確実に叶えてくれるってことだ。

今年こそ、神笹を見つけられますように……

2010/07/07 (Wed)22:33:54

#twnovel

雨粒ひとつ……あっというまに、視界が奪われる豪雨。

機甲大隊は、また立ち往生だ。

「FXXX！ 少尉、東京にもゲリラ豪雨が降るって嘘ですよ？」

「いや、ただし、自然現象さ。平和な国だ。シャーマンを抱えたゲリラなんかいやしない」

ポコ！

「やべ！ 雹ですぜ。絨毯爆撃だ！」

2010/07/07 (Wed)23:37:30

#twnovel

今日もまた、にんげんどもは二本足で歩いている。

あぶなっかしいっただらないんだが、やつらがその二本足さえ使わなくなる日は、そう遠くもない。

しかし、その頃にさえ、やつらは時間と空間を取り違えていて、時間軸を移動することができない。

しっぽを捨てた種族は、本当に使えない。

2010/07/08 (Thu)23:45:28

#twnovel

仲間が集まってきた。
昨日から、明日から、もっと遠くから、あるいは、現在に居続けのやつ……
曖昧な挨拶をかわし、それぞれの場所を占める。

「……」

交わされる言葉は少ない。
ある意味、無意味な時間を過ごし、解散。
それぞれの時間へ帰る。
そんなふうが始まって、終わる猫の集会。

2010/07/09 (Fri)00:32:02

#twnovel

田舎の一本道を歩いていた。
夢の中。
それが夢だとわかっている夢の中。
何が起きても違和感を覚えなかった。
その道が際限なく伸びていることも。
だから、いつまでも歩き続けた。
どこまでも。ずっとわくわくしていた。
夢の中だからだろう、と思いながら。
そして、今も歩き続けている。

2010/07/09 (Fri)22:48:45

*銀色の巨人と納豆の光。

#twnovel

怪獣に破壊される街。
逃げ惑う人々。
通常兵器は役に立たない。
そこへ、素っ頓狂な銀色の巨人が出現。
凄絶な死闘——見守る人々は、異臭に鼻をつまむ。
銀色の菌糸が巨人の全身を覆い、怪獣の攻撃を滑らせているらしい。
計ったように三分後、必殺技炸裂。
大量の肉片と納豆臭が残った。

2010/07/10 (Sat)20:43:20

#twnovel

巨大化した体を保護する菌糸膜は、地球の大気に触れると蒸発してゆく。
約一八〇秒で効力を失う。
その前に、ことをすませなくてはいけない。
また、蒸発した菌糸は補給しなくてはいけない。
体内プラントでも生成されるが、外部から取り込むほうが楽だ。
「お、ハヤタ、また納豆定食か」

2010/07/10 (Sat)21:38:54

#twnovel

やつはまだ気づいていない。
われわれが、内部から侵食していることを。
この惑星に落ちてきて、幾星霜……様々な形態に変化し、適応し、今は菌類に身を
やつしている。
なりゆきで食品になってしまったが、やつに食われることで、母星へ帰る道が拓
けた。
「お、ハヤタ、また納豆定食か」

2010/07/10 (Sat)21:59:39

#twnovel

「お、ハヤタ、耳から何かでてるぞ。取ってやるよ……うわっ、なんだこりゃ。納豆
の糸だ」
「え？ ああ、そういえば、さっき、素手で納豆をかきませたあと、耳をかいたんで
すよねえ」
「あはは、馬鹿だなあ、箸を使えよ」
「あはは、そうですね」
和やかに、侵されてゆくハヤタだった。

2010/07/10 (Sat)22:18:33

#twnovel

今回も銀色の巨人降臨……三分経過。
だが、必殺技が出ないまま、戦闘が続く。
怪獣はすでに戦意を喪失し、もはや、巨大な肉塊。
巨人の体表から分泌された粘液にからめとられ、身動きできない。
見下ろす巨人の右手に光る二本の棒が現れ、粘液をかき混ぜ始めた。
あたかも納豆のように。

2010/07/10 (Sat)22:38:28

#twnovel

銀色の巨人は、居座り続けている。
三分どころか、もう三日目。
怪獣の糸をひく肉片を、光の箸でつまんで口に運び、食べた。
最初の一日はそうやって過ごし、怪獣を食べつくした。
次の日からは微動だにせず、体液を分泌させつづけた。
街は納豆臭に包まれ、粘液に呑み込まれていった。

2010/07/10 (Sat)23:02:40

#twnovel

人類は街を捨てた。
納豆臭の粘液に追われ、郊外、山間部、さらに海へ……
だが、あるとき、粘膜の拡大はやんだ。
赤道上の一点に堆積し始め、銀色の塔を築いた。
塔は天を貫き、やがて、蒼穹に吸い込まれた。
消える寸前の最後の輝きを、復興した人類は”納豆の光”と呼んで語りついだ。

2010/07/10 (Sat)23:30:53

#twnovel

銀色の巨人だったものが目覚めたとき、まわりには誰もいなかった。
自分が置かれた状況が理解できなかった。
飛行機を操縦していた記憶が甦ったが、その前後のことが思い出せなかった。
破壊されつくした街の、その中心にいる——ただの人間の、ただの男として。
そして、今、歩きだす。

2010/07/10 (Sat)23:52:12

#twnovel

やつは、陽炎の彼方からやってきた。
丸腰の軽装で、とても荒野を越えてきたようには見えなかった。
おりしも、悪党二大勢力が乱闘中だ。
やつときたら、まるで散歩みたいに、その渦中へ踏みこんで、その全員をひきつれて酒場へ——
やつの名前？
あんた、アジェンダを知らないのかよ。

2010/07/12 (Mon)22:29:43

#twnovel

この町で、やつを知らないやつはいないよ。
揺り籠から墓場まで、やつの噂を聞かない日はないね。
たいした男さ。
それなのに、俺たちは何も知らないんだ。
やつがどこで生まれて、どう生きてきたのか、尋ねたこともない。
なぜだろうね。
ん？
なにか飛んでる？
それが、アジェンダさ。

2010/07/12 (Mon)23:49:03

#twnovel

サウロは、汗だくで夢の淵から浮かびあがった。
手探りで水がめを探し、水を貪り飲んだ。
物音に起こされた母親が、その背を優しくさすった。
「悪い夢でも見たのかい」
「うん、はりつけの男に呪われて、悪魔の姿で貝を選ばされるんだ……」
ユダヤ名サウロ——のちの使徒パウロである。

2010/07/13 (Tue)21:44:51

#twnovel

「これをしないと、前に進めそうにない」
彼は妻子を見つめた。
妻子の瞳には信頼の光があった。
「じゃあ、行ってくる」
陸上競技場へ。
ハンマー投げの円内に立つ。
手さげ袋を持ち上げ、ゆっくりと回転開始、加速——
「！」
手を離すと、中身の文庫本が空に散った。
さよなら、ホーガン。

2010/07/13 (Tue)22:25:22

#twnovel

世界各地で巨大な人骨が出土した。
月面でも巨人のミイラが発見された。
巨人たちはどこへ消えたのか？
激しい議論が重ねられる間にも、ミッシングリンクが発見された。
それらを年代順に並べると一目瞭然だった。
月のミイラ、地球上の古い骨、現代人……人骨は、だんだん縮んでいた。

2010/07/13 (Tue)23:19:31

*毎月14日はついのべの日、今月のお題は”革命”。

#twnvday

「今日は、気象衛星ひまわりが打ち上げられた日なんですが、これは革命的でした」
「そうでした」
「なかった時代のことなんて、考えられません」
「私、うっすら覚えてますよ」
「ほう」
「デイリー・プラネット社とかいう新聞社の予報がよく当たってた。空を飛んで見てきたみたいだね」

2010/07/14 (Wed)08:50:17

#twnvday

「先生、その後、いかがです」
「蔦屋か。日参ご苦労だな。今日の土産は何だえ？」
「お好きだとききまして」
「ところてんか。悪くねえ」

「さ、どうぞ」

「いただくぜ。ずず、こう、蒸すと、こいつが、ずず、ごっそさん」

「で、先生」

「悪いな。おらあもう戯作は書くめえと決めたんだ」

2010/07/14 (Wed)09:26:33

#twnvday

「革命シリーズ！」

「なんだ、藪から棒に、物騒な」

「はあ？ パソコンのソフトですよ！」

「ああ、あれ」

「CD革命とかあったじゃないですか」

「あったあった。CDが入ってないのに入ってるようにするやつ。昔は重宝したね」

「ああいうので、脳内革命とか人間革……」

「しーっ！」

2010/07/14 (Wed)13:27:49

#twnvday

暴徒は、濁流さながら——壊し、奪い、犯し、殺す。

風雅の趣など、都には一片も残っていない。

「これが、新しい世か」

王は問われた。

暴徒の首領は答えた。

「知るか。おいら、天の声を聞いただけ。命ヲ革メヨ、と」

「ならば、その声を、我が末裔が聞くこともあろう」

蛮刀が一閃した。

2010/07/14 (Wed)19:05:43

#twnvday

「革命のなんたるかを、僕は知らない。けれど、あのかたを救えるなら、僕の命なんておしくない。世間に変態だなんていうけど、それは違う！ 変態なんかじゃない！

凄い変態なんだ」

「熱意を認めよう。君もバスチーユ監獄襲撃班だ。で、そのかたとは？」

「マルキ・ド・サド侯爵！」

2010/07/14 (Wed)21:08:50

#twnvday

”民衆を導く自由の女神”——ドラクロワの代表作。
まあ、ぐぐってくれたまえ。
豪快な女性が、
「もう一軒いくぞ！」
勢いあまってポロリ……そんなわけがない。
テーマは革命！
だが、ここには、婦女暴行と殺人が隠されている。
まあ、ぐぐってくれたまえ。
生徒諸君、今日はここまで。

2010/07/14 (Wed)23:05:05

#twnvday

ドアが開き、薄暗い部屋に女が入ってきた。
「やあ同志！ よく来てくれたね。さあ、おいで」
寝台の上から、豚のような男が手招きする。
寝台のそばの灯に近づくと、女というよりまだ少女。
男の顔がゆるむ。
「可愛い同志」
「あ！」
「恐れることはない、革命だよ」
「革命？」
「革命だ」

2010/07/14 (Wed)

#twnovel

「そうり、げんだいじんのほとんどがそがいかんをかんじており、さいあく、じさつ
やむさべつさつじんにはってんするおそれがあります」
「なんだと。ないかくのききだ」
「そがいかんをとりのぞかないと」
「よし、では、わたしからだ。きょうから、うりだいじん、とよんでくれたまえ」

2010/07/15 (Thu)23:46:42

*シェアついのべ参加作品、#stw01というタグを用いる第一弾のテーマは、”願いの
叶う箱”。

#stw01

大人になりたい、と願った少年がいた。
遠い昔、遠い国の少年だ。

願いを叶えるために学問に励んだ。

人生の殆どを費やし、ついにそのための装置を完成させた。

少年、すでに少年ではなかった。

彼は、装置を海に流した。

時が流れ、装置は海の底で、こう呼ばれることになる——”玉手箱”と。

2010/07/16 (Fri)22:43:52

#stw01

「本当に、この箱で、願いが？」

「叶いますよ。さあ、練習したお名前を書きましょうね」

「……これでいい？」

「まあ、達筆。さあ、箱に入れて」

男は紙を箱に入れた。

「本当に、これで、未来が変わるの？」

「そうですよ。さあ、帰りましょう」

男は、つきそいの女性とともに施設へ帰った。

2010/07/16 (Fri)23:08:17

#stw01

その箱の中には、龍がいる。

龍ともあろうものが、ちっぽけな箱に閉じ込められているとは信じがたいが、信じる。

その箱には、鍵もかかってないが、絶対に開かない。

だが、おまえが、心の底から何かを願ったとき、おのずと開く。

そして、龍が宇宙をつくりかえる。

おまえの命とひきかえに。

2010/07/16 (Fri)23:43:39

#twnovel

君、いくつ？

二十一？

マジで？

若くってというか、幼く見えるなあ。

ああ、免許証まで出さなくても……まあ、信じてやるよ。

じゃあ、読んでもいいよ、このついのべ。

ちょっと、エロすぎるってクレームがあってね。

自分としては、そんなつもりないんだけど……ん、漢字が読めない？

2010/07/18 (Sun)16:57:18

#twnovel

二〇XX年年末——
すべては極秘だった。
毎年のことだったが、今年秘密主義も念入りだった。
そして、十二月三十一日、夜。
「さあ、いよいよです」
「みなさん、今年もびっくりしてください。サチコ・コバヤシです！」
そのとき、有人衛星で飛行士が呟いた。
「デビル・ガンダム……」

2010/07/18 (Sun)20:26:48

*NPO法人・幼児開放隊。

#twnovel

炎天下——国道沿いの広い駐車場。
その車が駐車したのは約二時間前。
運転してきた女は、パチンコ屋から戻らない。
「時間だ。出動！」
バンから飛び出してゆく隊員たち。
車の窓を割り、ぐったりした幼児を救出、応急処置を施す。
NPO法人・幼児解放隊の夏は、まだ始まったばかりだ。

2010/07/18 (Sun)21:15:42

#twnovel

隊の一員として、活動に疑問がない、と言ったら嘘になる。
炎天下の駐車場などの虐待環境から、我々は、たくさんの幼児を救出してきた。
幼児たちは、法的な処置を経て、保護者から引き離され、別の団体が保護する。
詳しいことは、知らない。
僕にできるのは、幸せを祈ることだけだ。

2010/07/18 (Sun)21:36:00

#twnovel

NPO法人・幼児解放隊の活動は、そのまま、僕の青春時代に重なる。
大学入学直後、学内で勧誘され、卒業、就職、結婚、そして離婚した二十代の終わり——突然の解散まで。
人間的に成長した、と思っている。

感謝もしている。

ただ、救出した子供たちのことは、いつも気になっていた。

2010/07/18 (Sun)21:48:08

#twnovel

「私に、なにか？」

「若いころ、幼児解放隊の幹部でしたね？」

「いえ、ただの隊員でしたが」

「まあいいや。救出した子供たちは、他の法人がひきとったんですよ」

「ええ」

「その先は？」

「は？ ああ、里親が」

「あんたも騙されてたか」

「え？」

「そんな法人は存在しないんですよ」

2010/07/18 (Sun)22:02:35

#twnovel

「君も天才集団出身だったね」

「はい、首相」

「ということは、これから祖国の土を踏むわけだ。感慨はあるかね？」

「お心遣い、いたみいます。しかし、ものごころつく前のことですから」

「そうか。しかし、そのほうがいい。なにしろ、これから」

「国ごと買い叩くのですからね……」

2010/07/18 (Sun)22:20:51

#twnovel

ふと伸ばした手に、ちくり——金網ぎわに立ち枯れたアザミ。

田舎の野原によく生えていたが、都心で見るとは思わなかった。

ふわり——そこから綿毛が舞い上がる。

ふらり——あとを追う。

赤坂見附から日枝神社、溜池……

「あなた、ちょっと」

肩を叩く警官。

綿毛は、首相官邸へ消えた。

2010/07/19 (Mon)23:56:08

小天体の所有権に関する国際法が制定されたとき、祖父はまだ三歳だった。
だが、祖父の祖父がこう言ったのを記憶している——ぼん、温泉につかるか。
彼は山師だった。
将来の利用権を餌に、新発見彗星を買収。
払い下げの核融合炉を埋設、薄膜で覆った。
現在の彗星本陣古芽戸屋本館だ。

2010/07/20 (Tue)21:33:22

今日の日が記念日。(2010/07/21 - 2010/07/31)

*7月22日はついのべハッシュタグ誕生記念日。記念テーマは” 記念日”。

#twnovel

駒音は、軽かった。
軽薄なくらいだった。
だが、そうやって置かれた歩いちまいが、王様を殺した。
「……まけました」
自分の声が遠かった。
「ま、こんなこともあるさ」
と男は言った。
初めて会った、さえない男だった。
勝ちたい——生まれて初めて思った。
だから、今日を記念日にする。

2010/07/22 (Thu)00:46:40

#twnovel

「マシュー、マリラ、大変！ 今日が記念日なのだわ！」
「記念日だって？ 女王さまの誕生日は過ぎたし、なんだったかしらね。兄さん、わかりますか？」
「そうさのう……」
「まあ、なんてことなの！ ふたりともわからないなんて。今日は、私が” 赤毛のアンごっこ” を始めた日よ！」

2010/07/22 (Thu)07:59:23

#twnovel

一年前の今日、ついのべが生まれ、私が生まれ変わった。
ついのべに出会う前の私は、ただのごろつきだった。
誰彼かまわず物語を叩きつけては、カウンターでやられた。
ついのべは、私の間違いを正してくれた。
テーマ、構成、字数……ものがたるすべを研ぎすます。
そして、その先へ——

2010/07/22 (Thu)08:59:46

#twnovel

妻のお共で、商店街へ。
妻は終始にこやかだ。
最初は八百屋。
「今日、記念日なんですよ」
「じゃあ安くしないとな。おまけもつけとくよ！」
そして、魚屋、肉屋……みんな愛想よく値引きしてくれた。
「どんなもんよ！」
と妻は誇らしげだ。
しかし、なんの記念日だったか思い出せない僕。

2010/07/22 (Thu)16:09:13

#twnovel

「おはよう！ 記念日に乾杯！」
「こんにちわ！ 記念日ですね。乾杯しましょう！」
「いい夜だね！ 記念日に乾杯！」
「今日はいい記念日になったね。乾杯！」
「ちょっと待ってよ！ 記念日はまだまだこれからよ。乾杯！」
事実上、毎日が記念日になっている国。
天国への距離も近い。

2010/07/22 (Thu)18:44:16

#twnovel

今日は、”第二章・ツイノベの盛衰”から。
七月二十二日の”ツイノベ記念日”に名を残す”ツイノベ”は、二十一世紀初頭、
日本で急増する。
理由については諸説あるが、脳内通信素子とクラウド図書館の普及によるところが
大きい。
それまでは、手で文章を入力していた。
書道みたいに。

2010/07/22 (Thu)22:38:33